

令和6年度 土浦日本大学高等学校通信制課程自己評価結果

本校の目指す 学校像	日本大学の建学の精神を礎とし、生徒一人一人の夢の実現に向けた努力へのサポートを目指しています。 (1) 校是として掲げる「調和・至誠・自立」をもとに、広く世界の文化を受容し、自らの道を自ら切り拓くことのできる、心身ともに健全な文化人を育成します。 (2) 次の時代の先駆者となるべく目標と覚悟を持つ生徒を育成します。 (3) 自ら学び、自ら考え、自ら道を開いていくことができるように努めます。
---------------	---

本校の特徴 および課題	本校は、日本最大級の規模を誇る総合大学「日本大学」の付属高校であるという安定した基礎の上に、生徒の自主性を尊重しつつ、一人一人をしっかりとサポートしていきます。土浦日本大学学園全体でそれぞれの生徒に適した学習の場を提供し、進路や将来を見据えた悩みなどにカウンセリングを中心として、一人一人の多様性に応じた支援にも取り組みます。日本大学付属校のメリットを活かした進学指導に努め、生徒一人一人の目標進路達成を目指して進路指導に取り組みます。
----------------	--

令和6年度 取組結果	通信制課程開校4年目で、新入生25名、第2学年23名、第3学年52名の100名で令和6年度をスタートした。5月から転校生、転籍生があり、年度末には142名の在籍となった。 令和6年度の卒業生は60名で進路については、日本大学へ内部推薦試験にて文理学部2名、経済学部2名、商学部、法学部、国際関係学部、生物資源科学部等に8名が進学している。その他2名が一般受験により合格しており、日大への合格者は計10名となった。茨城大学農学部1名が合格した。その他、駒澤、立正、共立女子等を含め私立大学23大学、専門学校9校に合格者を輩出した。また、6名が就職している。 生徒一人一人のニーズに適したコース（進学、通学、一般、スポーツ・芸術）選択により、個々の夢の実現達成に向けた体制を整えている。
---------------	---

目標設定・活動点検の適切さ ・活動の達成状況	A：取組目標が達成された B：目標はおおむね達成された C：課題を多く残している D：成果が出ていない
---------------------------	--

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教育活動 （教務）	①目標の設定について	生徒一人一人の進路目標に即した学習指導、ICTを活用した学習の実践する。日本大学推薦入試や他大学受験に向けた特別授業や模試の実施する。	A
	②活動の実際について	生徒個々の学習への進捗状況を常に把握し、保護者とも連携して、希望進路実現に向けた個に応じた指導を展開した。 シラバスを作成し、生徒の学習ペースが保たれるように努めた。	A
	③活動の点検について	生徒の中には学習ペースが保たれずに、レポートの作成・提出、スクーリングへの参加が遅れる状況が散見した。遅れた背景を追求し、個に即した適切な指導、支援を保護者と連携しながら点検することができた。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
教科指導 （教務）	①目標の設定について	新しい学習指導要領によるカリキュラムを構築し、シラバスに即した教科指導を推進する。	A
	②活動の実際について	新学習指導要領・基礎学力到達度テスト及び他大学入試に即したカリキュラムを構築し、生徒一人一人の希望進路に対応できるように個々の目標進路の実現に取り組んだ。	A
	③活動の点検について	新学習指導要領に対応するカリキュラムを整理し。常に進捗状況を把握しながら年度の途中であっても適切なカリキュラムとなるように改善した。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
学校生活への 配慮 （生徒指導）	①目標の設定について	生徒一人一人の生活習慣や心身の状況、課題等を把握し、個に即した適切な生徒指導を実践する。また、登下校時には、教職員からの声掛けにより、信頼関係の構築を図り、生徒の状況を把握する。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人が様々な悩みを抱えているため、背景を踏まえた生徒指導を軸として取り組んだ。また、心因的な課題や生活習慣等については、教職員全員の共通理解を図りながら全教職員で対応した。担任による保護者への連絡も含めて家庭訪問や三者面談を行い、生徒、保護者と良好な関係を構築して学校生活が充実するように努めた。	A
	③活動の点検について	教職員が生徒一人一人の生活習慣や心身の状況を把握したうえでの登下校時の声掛け、家庭訪問や三者面談を通して、生徒、保護者とスムーズに連携できた。また、担任、学年主任が協議し、以後の指導に活かすことができた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
進路指導	①目標の設定について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導を徹底する。日本大学付属高等学校等基礎学力到達度テストや他大学進学、専門学校進学のための特別編成授業や面接指導・論文指導を推進する。また、就職希望者にも寄り添った指導を目指す。	A
	②活動の実際について	生徒一人一人の希望進路に即した進路指導が教職員全員の共通理解のもと、担任や学年主任が中心となって展開された。 また、春秋には実力養成特別編成授業により生徒の実力、意識の改善に努めた。	A
	③活動の点検について	生徒一人一人の希望進路に即した指導により、幅広い進路を達成できた。本年度の卒業生は60名で、日本大学へは経済学部、生物資源科学部をはじめ6学部10名が合格した。また、茨城大学、駒澤大学、立正大学、東海大学及び共立女子大学、和洋女子大学など、国立大学1校、私立4年制大学（含通信制）33学部23校、専門学校9校に合格した。次年度にも活かせる実績となった。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ活動の達成状況
教育相談	①目標の設定について	楽しい学校生活を目指し、生徒や保護者からの主訴を分析して、必要であればスクールカウンセラーとの連携を図る。	A
	②活動の実際について	生徒、保護者からの教育相談を適宜受けられる体制を整え、カウンセラー、全日制の教育相談部との連携して解決を図った。また、担任を中心に家庭訪問、三者面談を実施し、生徒、保護者と課題の解決を図った。	A
	③活動の点検について	教育相談内容は必用に応じて担任、学年主任、教職員と情報共通を図り、適宜対応することができた。また、家庭訪問、三者面談を通して課題解決及び信頼関係構築に結び付いた。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ活動の達成状況
いじめ防止対策	①目標の設定について	本校で掲げた「いじめ防止基本方針」に示された『未然防止』『早期発見』『適切な対応』『再発防止』の各取組に対するの共通理解を深め、いじめ根絶を目指す。	A
	②活動の実際について	生徒の交流機会が少ないため、『未然防止』に努めることに重点を置いて指導した。また、アンケートによる現状把握にも取り組んだ。	A
	③活動の点検について	今後、生徒の増加に伴い、『未然防止』だけではなく、『早期発見』、『適切な対応』、『再発防止』の3項目の取組が重要になる。教職員の見守り、カウンセラーとの連携体制の充実を推進する。	A

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
広報 （情報入試）	①目標の設定について	令和5年9月の新校舎竣工により右荻桜キャンパスを会場として高校生、中学生を対象とした進路相談会を適宜実施する。県内、千葉県隣接地域、栃木県隣接地域の中学校・高校を訪問して広報活動を充実する。 通信制課程等連絡協議会主催の進路相談会、私学フェア等への参加、ホームページのリニューアル、学校案内のリニューアル、新聞広告への掲載等に取り組む。	A
	②活動の実際について	年間を通して広報活動を展開した。 新校舎を活用した進路相談会11回実施し、多くの生徒が参加した。特に、2、3月の相談会では中学生の入学に直接繋がったケースが見受けられた。また、中学校、高等学校への訪問を通して広報した。茨城県通信制課程等連絡協議会の通信制相談会や私学フェア等への参加も認知度アップに繋がった。ホームページやスクールガイドを刷新して広報に努めた。	A
	③活動の点検について	新校舎を活用した進路相談会は相応の成果があり、次年度には回数、時期を再考して、生徒確保に臨む。また、中学校、高等学校における生徒の転学時期をを踏まえ、より効果的な訪問時期を見計らう必要がある。計画を見直し、効果的な募集活動を推進する。	B

校務分掌	評価項目	設定や点検の内容・活動の進捗状況	目標設定・活動点検の適切さ・活動の達成状況
管理運営 (事務)	①目標の設定について	①校務運営の円滑化（行事等・入試広報活動・事務システムでの教学部門・全日制課程との連携） ②教育環境の充実・維持（充実した授業等が展開するためのＩＣＴ設備等の整備、スクールバスの運行整備）	A
	②活動の実際について	令和５年度の新校舎増築、それに伴う設備整理により、夏季・冬季集中スクーリングの展開が格段に改善され、利便性が向上した。また、生徒の個々の履修状況に応じた少人数授業や個別面談、自習室としての活用に柔軟に対応できることで、生徒における学習環境につながった。また、本年度より岩瀬日大高校でのスクーリングを実施し、利便性の向上に努めた。 新入生対象の「新入生説明会」を実施した。 全日制課程庶務部の協力のもと、第４回入学式（集会室）、第４回卒業式（第二アリーナ）に多くの在校生が参加し、厳粛に盛大に挙行された。 個々の生徒の単位取得数・必要な学習支援に応じて納付金を収受することが必要なため、申込書類等と照合の上、適切に事務処理を行った。また、合格書発行まで教務・情報処理と連携し遅滞なく事務処理を行った。 土浦駅、つくば駅からの送迎も順調であった。利便性も向上し、生徒、保護者にも好評であった。 蓼科林間学園を活用した宿泊学習を計画・実施し、楽しい学校生活の充実や交流の場となった。	A
	③活動の点検について	新校舎の運用や備品、ＩＣＴ環境にも配慮して、生徒の学習環境の向上を図る。 全日制の施設を利用するための連携をしっかりとしなければならない。今後、運営上、さらに必要となることを検討して精査する。 つくば研究学園方面からの生徒が増加傾向にあり、次年度に向けてつくば駅送迎の効果的な改善を模索し、推進する。 蓼科林間学園を活用した宿泊学習は次年度以降も継続し、修学旅行の実施への連携等も行っていく。	A